

偽薬は効く？効かない？

ブラシーボ

体は生理的に不活性の偽薬である。そのために、臨床試験で新薬の薬効を判定する際の比較対照薬として利用される。この偽薬が臨床場面で活性化することは多くの医学者や心理学の認めるところだ。ほぼ三分の一の患者が偽薬や偽注射で症状が改善するといわれてきた。

この論文は爆弾を抱えていた。その標題には、ほぼ半世紀前にブラシーボ研究の嚆矢となったハーヴァー



弘忠 広瀬 東京女子大学教授・心理学
一九四二年東京生まれ。著者に「心の潜在能力、ブラシーボ効果」「生と死の境で生き残る人、命を失う人」「エイズへの挑戦」「酸性化する地球」など。

臨床試験の比較対照薬

五月下旬、インターネットの画面を読む私の体内に一つの衝撃が走った。震源はアメリカの医学専門誌『ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスン』に二人のデンマーク人が発表した「ブラシーボは無力か？」という論文だった。ブラシーボとは、乳糖入りの薬用カプセルや注射用の生理食塩水など、それ自

米国で盛り上がる論争

伝統医療解明のヒントにも

医療問題担当記者の評論記事を躍らせている。ニューヨーク・タイムズはブラシーボ神話の崩壊を説き、ワシントン・ポストとロサンゼルス・タイムズは詳細にデンマークの研究者たちの挑戦を紹介している。週刊誌タイムは六月十一日号で、ブラシーボ効果を茶化した六コマ漫画まで載せている。ひとつの論文がこれほどまでに社会を騒がせたことで、アメリカではブラ

心理的効果で症状改善

病気の種類は、高血圧症からアルツハイマーまでの四十種類におよんでいた。結果は見事であった。ブラシーボ群が優っていたのは鎮痛効果のみで、残りの全てについてブラシーボ群と不処置群との間に統計的な優位差はなかった。彼らの結論は、ブラシーボには治療効果はほとんどないというものだった。

学際的な研究必要

現在、ブラシーボ効果の研究にもっとも熱心なのは、伝統医療を科学の立場から見直そうとする人びとだ。アメリカを代表する医学研究機関のひとつ、国立補完医療・代替医療センターは、昨年ブラシーボ効果の基礎と応用に関する検討会を開いた。会議の中心人物の一人は、ブラシーボ研究が社会的に認められて、学際的な研究がおこなわれる必要があることを強調している。

日本はもちろんアメリカや西ヨーロッパでも、全人的医療をあらためて見直そうという動きが顕著だ。伝統医療の利用者はますます増え続けている。現代医学の主流である西洋医学の立場から伝統医療を読み解くキーワードの一つはブラシーボ効果である。伝統医療では、医療者と患者の関係の密度は高く、ブラシーボなきブラシーボ「すなわち言葉によるブラシーボ」を含めたブラシーボ効果を受けやすい。証拠に基づいた医学の(EBM)を指向する現代医療にとって、ブラシーボ効果の研究は避けて通れない未知の領域のひとつである。

ド大学のヘンリー・ピーチャーの論文「強力なブラシーボ」以来、今や専門家の世界で確かなものとされているブラシーボ(偽薬)の治療効果への信頼を、根底から覆そうという意図が込められていた。その企ては半ば成功した。

「神話の崩壊」大反響
五月二十四日のアメリカの新聞各紙は大紙面をさき、

ほとんど治療効果なし

シロポ効果がかくも社会のすみずみにまで一般常識化していたことに、私は初めて思いついたのである。彼らがおこなった仕事は画期的な意味をもっていた。過去に公表された臨床試験のうちから、無作為に振り分けられたブラシーボ群と何の処置もしない不処置群を合わせもつ百十四件の臨床試験を選び出し、両群に属する患者合わせて八千五百人のデータを集計して比較したのだ。これらの臨床試験に含まれる

ブラシーボ論争に火がつけられた。ブラシーボ効果は否定されたとする専門家は、いや否定するに足る証拠はないにもかかわらず、いらないとする専門家、分析方法に問題があるため統計的な検出力が低く、間違った結論が導かれたと批判する専門家などが、一斉に語り始めた。ブラシーボ論争は燃え上がりつつある。それに伴って、逆説的な言い方だが、ブラシーボについての謎も一層深まることだろう。

「オズの魔法使い」のオズ大王の正体は、つい立ての陰の年とつた小男のペテン師にすぎなかった。だが、勇気がほしいライオンに緑色のビンから液体を飲ませると、ライオンは念願の勇氣を得ることが出来た。ブラシーボはオズ大王なのか。これまでにおこなわれてきたさまざまな臨床試験や実験の結果から、ブラシーボは脳内でエンドルフィンの分泌を促して痛みを抑え、免疫力を賦活化させ、気分をリラククスさせるなど現実に私たちの生理と心理を動かす力を持っていると考えられてきた。だが、今やさらなる検証が必要となった。

現在、ブラシーボ効果の研究にもっとも熱心なのは、伝統医療を科学の立場から見直そうとする人びとだ。アメリカを代表する医学研究機関のひとつ、国立補完医療・代替医療センターは、昨年ブラシーボ効果の基礎と応用に関する検討会を開いた。会議の中心人物の一人は、ブラシーボ研究が社会的に認められて、学際的な研究がおこなわれる必要があることを強調している。

日本はもちろんアメリカや西ヨーロッパでも、全人的医療をあらためて見直そうという動きが顕著だ。伝統医療の利用者はますます増え続けている。現代医学の主流である西洋医学の立場から伝統医療を読み解くキーワードの一つはブラシーボ効果である。伝統医療では、医療者と患者の関係の密度は高く、ブラシーボなきブラシーボ「すなわち言葉によるブラシーボ」を含めたブラシーボ効果を受けやすい。証拠に基づいた医学の(EBM)を指向する現代医療にとって、ブラシーボ効果の研究は避けて通れない未知の領域のひとつである。